

びわこの 考湖学

— 第2部 —

38

毎年5月の連休中に、長浜市の町内を通る北国街道を「蓮如上人さまのお通り」とふれながら駕籠を乗せ、のぼり旗をかかげた御輿車に仕立てたりヤカーが進みます。その駕籠のなかには真宗中興の祖である蓮如上人（1415〜1499年）の御影が納められています。この蓮如上人御影道中は、「蓮如さん」と親しみをもって呼ばれ、この地の風物詩であり年中行事となっています。

長浜市曾根町に所在する浄土真宗長善寺は、長年、「蓮如さん」の行事を地域ぐるみで受け入れ、支えてきたという歴史があります。

蓮如上人御影道中は、江戸時代中ごろにあたる宝暦2（1752）年に始まったとされています。蓮如上人は、浄土真宗復興を琵琶湖の周辺から開始しました。琵琶湖周辺には、蓮如上人を慕う門徒が集う道場が守山市金森を始め、いくつもできていました。また、琵琶湖の湖上交通特権を与えられていた堅田衆を門徒に引き入れることにも成功し、琵琶湖を中心に大きな影響力を持つようになりま

す。この急激な発展は延暦寺を刺激し、ついには「異端派」と宣言されてしまいました。応仁元（1467）年、応仁の乱が起り蓮如上人は祖像を奉じて堅田へ移住し、ここを本願寺再起の本拠とし

北近江は、真宗王国といわれる北陸地方とならび、浄土真宗の門徒が多い地域です。

ます。応仁2（1468）年、比叡山は大軍を持って堅田を攻撃し、蓮如上人はやむなく北陸地方へと旅立ち、越前の吉崎に本拠を移しました。その苦勞と遺徳を偲び、蓮如上人の御影を京都の本山から福井県あわら市の吉崎別院で運んだのが蓮如上人御影道中の始まりとされています。



湖の東岸を通り、京都の真宗本廟に向けた帰路で旅が終わり、この道中の行きは御下向、帰りは御上洛と呼ばれています。

帰路の宿泊地である長浜市長善寺では、到着を知らせる鐘が打ち鳴らされ、近所の門徒さんたちが集まると、御影が納められたお櫃が仏間に運ばれて教導さんが説教を始めます。しばらくして、長い道中を歩いて来た人々は近くの門徒のお宅で湯に入り旅の疲れを癒やすとともに、足にできたマメの治療に当たり、明日からの旅に備えます。こうした行事に自主的に参加される人のなかには、テントなどの荷物を自転車に積み野宿する人もいると聞きます。

江戸時代より連続と続く御影道中の行事は、一見タイムスリップしたような、懐かしい感覚を覚えます。一方で、多くの車が行き交う道路を参加者たちが行列を配して御輿車を引いて通ることは交通安全全の面から心配な面もあります。また、農村地域も都市化と少子高齢化の波が急速に近づいており、道中の将来が案じられます。

しかしながら、熱心な信者がおられるとともに、全国各地から多くの信者が参加されていることは心強い事実です。蓮如上人御影道中は、このような熱心な信者と地元の方の協力や援助によって受け継がれています。かつて宗教闘争によって琵琶湖を追われた蓮如上人の道中を追体験する御影道中が、民俗行事になる日も、そう遠くないのかも知れません。



御輿車を引く参加者

（財団法人滋賀県文化財保護協会 中川正人）

全国各地から信者が参加

蓮如上人御影道中接待記

長善寺を出発する御影